

明治の終わりに日露戦争、大正時代には第一次世界大戦が起き、第二次産業革命の進展の結果、社会問題の解決のための社会運動が盛んになりました。社会事業行政は内務省社会局に一

善事業、救済事業と呼ばれる事業があちこちで芽生えます。浄土宗はじめ、仏教界でもさまざまな動きがありました。福田会が東京・日本橋に誕生したのが1876年、その後数多くの慈善団体が事業を開始し、明治末期に全国組織である中央慈善協会が生まれます。1908年の設立趣意書には、国内外の慈善救済事業の調査報告、慈善団体・慈善家間の情報共有、慈善救済事業の指導奨励、救済行政への請願などの目的が明記されています。

日清戦争の頃から第一次産業革命が進み、ようやく民間レベルで困窮者を助けようという慈善事業、救済事業と呼ばれる事業があちこちで芽生えます。浄土宗はじめ、仏教界でもさまざまな動きがありました。福田会が東京・日本橋に誕生したのが1876年、その後数多くの慈善団体が事業を開始し、明治末期に全国組織である中央慈善協会が生まれます。1908年の設立趣意書には、国内外の慈善救済事業の調査報告、慈善団体・慈善家間の情報共有、慈善救済事業の指導奨励、救済行政への請願などの目的が明記されています。

●児童福祉を先進的に導いてきた浄土宗、そして知恩院

本日は、平安養育院の児童福祉事業の現状について、社会的養護の立場を中心にお話することです、なお厳しい児童福祉の現状の一端を理解していただきたいと思います。

まず、明治期以降の社会福祉の歴史を振り返り、平安養育院の成り立ちと背景を見てみます。明治時代には、富国強兵、殖産興業政策が進む中で、江戸時代を踏襲する形で、民生、国民生活の問題解決の施策が出されます。1874年の「恤救規則」がそれにあたります。恤救とは、憐れみ、救うことであり、困りごとは地域と家族・親族による救済が基本で、それを越える極端な場合のみ国が恩恵的に上から下へ給付するというもので、国が社会問題の解決のために救済にあたるという観点はありませんでした。

講話

平安養育院の児童福祉事業

～社会的養護のこどもたち～

社会福祉法人 平安養育院 理事
児童養護施設 平安養育院 統括施設長
自立援助ホーム 東樹

水野正美

1月30日に開かれた「総本山知恩院冬安居道場」から要旨を採録しました。



水野正美（みずの しょうみ）

1956（昭和31）年、京都市生まれ。84年華頂女子中学高等学校教諭、2010（平成22）年総本山知恩院嘱託職員を経て、2012年より現職。知恩院では人権啓発担当者として他の部署の担当者とともに車いす体験研修や障害児施設実習研修などに取り組む。2004年から東光寺（京都市上京区）住職。